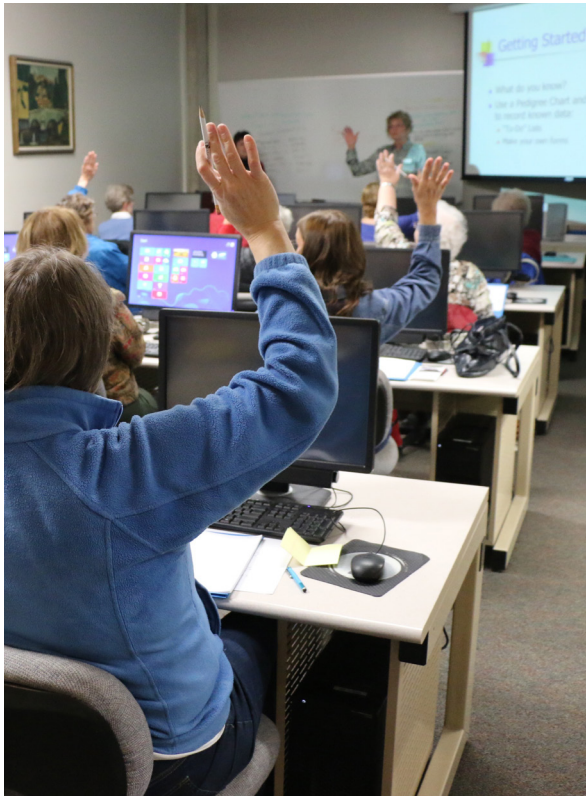


専門職継続開発訓練(CPD)による効果に関するエビデンスはほとんどない



語学と識字能力開発の介入を除くと、結論を導き出すためのエビデンスは不十分である。この種のCPDの場合、生徒・学生の学業成績には影響がないように思われる。

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは、教育と福祉の実務家に対する専門職継続開発訓練(CPD)アプローチの効果が子どもや若者の教育的・社会的成果、実務家にとっての成果にもたらす影響を検討している。このレビューは、48件の無作為化比較試験研究および3件の準実験的研究を含む、計51件の中程度の質を有する研究を要約している。

専門職継続開発訓練(CPD)は、子どもや若者にかかわる教育と福祉の専門家の成果を改善することを目的としている。しかし教育に関するCPDが児童・生徒の学業成績を改善するという明確なエビデンスは存在しない。

このレビューでは何を検討したのか？

CPDは、さまざまな環境で、さまざまな種類の「訓練者」もしくは教育者によって、さまざまな期間、さまざまな強度で実施されている。コーチングセッション、教室での実演の観察もしくは録画に基づいたフィードバック、フィードバックと反省のワークショップなど、多くの実施方法がある。

このレビューでは、教育と福祉の実務家(幼稚園の先生、教育者、学校教師、ソーシャルワーカー、心理学者、警察官)へのCPDアプローチが子どもや若者の教育、社会、犯罪、司法に関する成果—さらに副次的成果として、こうした領域の実務家の専門的実践—にもたらす影響について検討した。このレビューの目的を満たすため、CPDはコアとなる専門技術の開発に関するものである必要がある。

このレビューにはどのような研究が含まれているか？

このレビューには、CPDによってもたらされる子どももしくは若者と専門家の成果への影響について評価を行う研究が含まれている。51件の研究が特定され、すべての研究が教育に関するものであった。社会福祉もしくは犯罪、司法に関しては対象となりうる研究がみられなかった。

51件の教育研究は以下の3つの下位テーマ領域に分類された。社会的、感情的開発の介入(デイケア、幼稚園、学校という環境下)について検討する12件の研究(10件の比較試験を報告)、語学や識字能力開発の介入について取り扱う38件の研究(33件の比較試験を報告)、ストレス低減におけるCPDを検討する1件の研究であった。大部分の研究(48件)が無作為割付を行う実験デザインを用いていた。

51件のうち26件の研究のみが、このメタ分析に含まれることとなった。件数が減少した理由は、同じ比較試験について報告していること(5件)、効果量の計算に関する結果の報告が不十分であること(4件)、バイアスのリスクがあまりにも高い研究であると評価されたことなどであった。



このレビューはどれくらい最新のものか？

このレビューの著者らは2018年12月までに発行された研究について調査した。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Filges, T, Torgerson, C, Gascoine, L, Dietrichson, J, Nielsen, C, Viinholt, BA. Effectiveness of continuing professional development training of welfare professionals on outcomes for children and young people: A systematic review. Campbell Systematic Reviews. 2019; 15:e1060. <https://doi.org/10.1002/cl2.1060>に基づいている。この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。



AIR[®]

AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH[®]

合計で16件の研究が、メタ分析に含めるには方法論的な質が不十分であると評価された。

研究の期間は1998年から2018年の範囲に及んだ。33件の比較試験が米国で行われたもの、2件が英国、デンマーク、アイルランド、オランダ、ニュージーランド、ポルトガル、オーストラリア、チリ、ドイツが1件ずつであった。

このレビューの主な結果は何か？

社会的、感情的開発への介入(9件)

社会的、感情的開発の介入(デイケア、幼稚園、学校の環境下)に関してはごくわずかなエビデンスによって、児童・生徒の学業成績にはCPDによる効果がないことが示された(4件)。2件の個別研究から得られた結論のみ、ほかの学生の成果(つまり学業に関するものではない成果)に関する単一のメタ分析に統合することができた。またこれらの結果に対するこの種のCPDの有効性または無効性に関するあらゆる結論は排除されている。

語学と識字能力開発への介入(17件)

語学と識字能力開発への介入に関しては中程度のエビデンスによって、児童・生徒の学業成績にはCPDの効果がないということが示された(13件)。わずか3件の個別研究から得られた結論のみ、教師の成果に関する単一のメタ分析に統合することができた。そのため、これらの教員についての結果に対するこの種のCPDの有効性または無効性に関するあらゆる結論は排除されている。

ストレス低減(1件)

ストレス低減の下位テーマに分類された1件の研究からは結論を導き出すことはできない。

このレビューの知見の意味するところは何か？

語学と識字能力開発への介入を除くと、結論を導き出すためのエビデンスは不十分である。この種のCPDについては、児童・生徒の学業成績への効果はないように思われる。

このレビューがカバーしているCPDの介入の種類が評価された主要国は米国に優位性があるため、結果の一般化可能性は明らかに制限されている。さらに、研究数が限定されていることは、文化、職業種、サービス提供の種類、組織、サービス利用者の種類にわたる具体的なCPDアプローチの分析を行うことができなかったことを意味している。

関係機関は、米国以外の国におけるCPD介入の効果の評価するため、大規模な無作為化比較試験(つまり大規模なRCT時系列)の実施を考慮する必要がある。